

藍住南小学校で河川環境学習を開催しました。

藍住南小学校4年生の児童を対象に、「川の水をきれいにするための取り組み」について学習した後、身近な川の水や生活排水の水質検査、透視度検査を体験し、水をきれいにする事の大切さを学びました。その後、「汚水のお話」により汚水の処理など、水をきれいにする仕組みを学びました。最後に、藍住町の下水道について学びました。

【実施概要】

日 時：平成24年10月10日（水）9：30～11：25

場 所：藍住南小学校

参加者：藍住南小学校 4年生	88名
徳島県 河川振興課	2名
下水環境課	1名
東部県土整備局徳島庁舎	2名
藍住町 下水道課	2名

- 内 容：1 川の水をきれいにするための取り組み
2 水の汚れの原因（水質実験：透視度、COD パックテスト）
3 汚水のお話
4 身近な汚水処理施設について

感 想：正法寺川をきれいにしていきたい。人が水を汚しているなんて知らなかった。お皿に付いた汚れは要らなくなった紙などで拭くようにしたい。油などが川を汚す原因になることを初めて知りました。川に行ったとき、ゴミがあったら拾うようにしたい。アドプトにももっと参加していきたい。

【活動状況】

○「川の水をきれいにするための取り組み」

川の役割や川と人の関わりなど、川に関する基本的なことを学びました。また、正法寺川の現状や正法寺川をきれいにするための取り組み、その大切さを学びました。



○「水の汚れの原因」水質実験（COD パックテスト、透視度測定）

身近な河川の正法寺川と水道水の透視度を測定しました。測定結果は、正法寺川の水は、水道水に比べて透視度が低いことがわかりました。

次に、COD（化学的酸素要求量）をパックテストにより測定しました。正法寺川と水道水のCODを測定した結果、水道水に比べ、正法寺川のほうがCODが高いことがわかりました。また、川の汚れの原因となる生活排水として、身近にある食品（牛乳、ジュース、しょうゆ、スープ、日本酒、米のとぎ汁、焼き肉のたれの全7種類）のCODを測定しました。測定した結果、500mlの水に2～3滴程度混ぜたものでも15～100mg/lとなり、食品によっては高い値を示すものもありました。このことから、残した食べ



物を安易に流しや川に捨てることによって川がどれほど汚れてしまうかを知り、水質浄化のために自分達ができることを学びました。



○汚水のお話

生活の中で発生する汚水を汚水処理施設できれいな水に処理する工程、汚水処理施設の種類、汚水を少なくする方法などを学びました。



○身近な汚水処理施設について

藍住町民が利用している地下水の取水施設や下水道の整備箇所などについて学びました。